

# AMR(薬剤耐性)で東亜畜産研修会

東亜畜産工業(株)増田MR対策」と題して基調紹介。

増田社長は11月17日、東講演。(株)ウエルファーム セファロスポリン耐性大腸菌が2004年以降、増えつつあること、動物診療所の橋本信一郎所長が「養鶏における生菌剤の活用」、(株)豊浦獣医科クリニックの大井宗孝社長が「養豚における生菌剤の活用」生産性向上とAMR対策としての菌の出現が減少してきたことにも触れた。

類の一種としての「ニワトリ」の特性から解説。近年の研究で、羽毛を持つ恐竜がいたことや、ティラノサウルス・レックスと鶏などのコラーゲンペプチドの類似性などが明らかとなり、鶏を恐竜の子孫であることが科学的に確認されている。そのうえ「活性酸素が出にくい」という特徴として、呼吸はかからなければ「長生き」の上下運動ではな約40年、オウムやツルは約75年生きる。このあたりに、この動物の面白いところ」と紹介。

## AMR対策の一環として生菌剤にも注目

「気嚢」が空気を肺の約80年生きる。このあたりに、この動物の面白いところ」と紹介。

「イムノリッチ」が発売されたことから、今回「イムノリッチ」が、富太樹夫社長が、ピオスから養鶏についても知識を深めていただきたく、提供。営業本部動物薬営業部北日本支店の飯田賢と開催趣旨を説明。増田社長も「要旨別掲」の通りあいさつした。

「気嚢」が空気を肺の約80年生きる。このあたりに、この動物の面白いところ」と紹介。

「気嚢」が空気を肺の約80年生きる。このあたりに、この動物の面白いところ」と紹介。

「気嚢」が空気を肺の約80年生きる。このあたりに、この動物の面白いところ」と紹介。

「気嚢」が空気を肺の約80年生きる。このあたりに、この動物の面白いところ」と紹介。

「気嚢」が空気を肺の約80年生きる。このあたりに、この動物の面白いところ」と紹介。

### 増田社長あいさつ要旨

増田社長は、昭和23年1月70周年を迎える。創業し、来年1月には創立8年目を迎える。



増田社長

増田社長は、昭和23年1月70周年を迎える。創業し、来年1月には創立8年目を迎える。

増田社長は、昭和23年1月70周年を迎える。創業し、来年1月には創立8年目を迎える。

増田社長は、昭和23年1月70周年を迎える。創業し、来年1月には創立8年目を迎える。



動物薬卸の営業担当者を中心に約80人が出席した



パネルディスカッションする(左から)境氏、橋本氏、大井氏、大塚氏

料の栄養成分の有効利用を促進し、増体量や飼料効率の改善を効果としてい。農場経営において、成績や採算性に基いて飼料を選択している。現時点では、生菌剤の指定は行なっており、生菌剤無添加飼料のほうは農場成績や採算性が良い例は少なくない。実効性を示すよう、さらなる研究開発に期待する。生菌剤混合飼料の添加は、費用対効果の観点を含め、今後の銘柄鶏(開発)材料として「飲水用ピオスリッチ」も検討したい」とし、結果が得られたことを報告した。